



カザフスタン戦でシュートを放つ上町史織(中国・常州(共同))

上町(盛岡)9得点 日本が自星発進

ハンド女子 五輪アジア予選

【常州(中国)共同】ハンドボールのロンドン五輪女子アジア予選第2日は13日、中国江蘇省の常州で行われ、36年ぶりの五輪出場を目指す日本は昨年のアジア選手権優勝のカザフスタンに38-26で快勝し、初戦を自星で飾った。盛岡市出身の上町史織(北国銀行、盛岡二高十国士大出)が9得点を挙げ、勝利に貢献した。

機動力を生かした

黄慶泳・日本女子監督の話
60分間走り切り、機動力を生かした。相手の状態が良くなかったのもあるが、こまめに点差がつくことは予測していなかった。

日本は真実、藤井(ともにオムロン)を中心とした強いパス回しで得点を奪い、前半を18-14で折り返した。後半も意気のあるカザフスタンの反撃を封じ、上町の速攻などで差を広げた。15日の第2戦は広州アジア大会の決勝で敗れた中国と対戦する。予選には日本、カザフスタ

アジア女王・カザフに完勝

36年ぶりの五輪の舞台へ向けて、日本が最高のスタートを切った。身長180センチ以上の

対策はできていた

上町史織の話 真前の欧州での合宿で大きい選手がいるチームへの対策はできていた。ディフェンスが機能して走って速攻という形で点が決まり、いい流れをつくれた。

ン、中国、韓国、北朝鮮、トルクメニスタンの6カ国が参加し、21日まで総当たりのリーグ戦で争う。1位チームがロンドン五輪の出場権を獲得し、2位は来年の世界最終予選に回る。

1日	本	38	26	カザフ
1勝				1敗

相手の真実に持た味のスピードで対抗した。
14-14から真逆のゴール